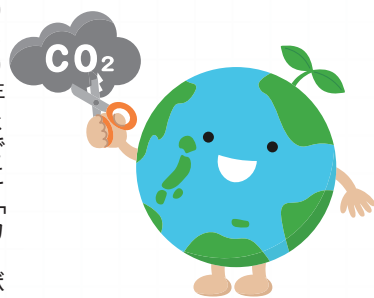


脱炭素社会を目指して 未来のために今できること



なぜ脱炭素社会を目指すの？

現在、地球温暖化という問題は、決して他人事ではなく、その影響は私たちの身近なところまでやってきています。

地球温暖化の原因である温室効果ガス（二酸化炭素等）ですが、適量であつた時は、地球の気温は生物にちょうど良い温度に保たれていました。

しかし、現在は温室効果ガスが増えすぎたことで、太陽の熱が宇宙に逃げにくくなり、地球の気温が上昇しています。これが地球温暖化のメカニズムです。（図1）

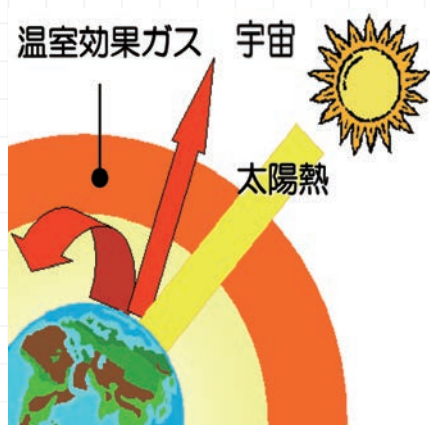


図1 地球温暖化のメカニズム

地球温暖化が進むと、南極などの氷が溶け出し、海水面が上昇します。海水面が上昇してしまうと、低い土地や島は沈んでしまう危険があります。他にも、暑い地域でのみ流行する感染症が拡大したり、異常気象による影響で、農作物の収穫量が減少し、飢餓人口が増えると言われています。

また、日本において近年頻発している激しい雨や台風などの異常気象も温暖化の影響だと考えられています。今年、観測史上初めて6月に40℃の気温を記録し、熱中症による救急搬送も前年の同時期に比べると約10倍の数になりました。

地球温暖化の進行を食い止め、私たちが安心して生活できる未来をつくるために、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする社会「脱炭素社会」を目指しています。

実質ゼロとは、排出された温室効果ガスを森林等で吸収し、温室効果ガスの排出量を全体でゼロにすることで、「カーボンニュートラル」とも呼ばれています。（図2）

脱炭素社会を実現するために

日本は、2050年までに「カーボンニュートラル」を目指すと言っており、国や自治体だけでなく企業や個人等で脱炭素への取り組みが行われています。

日本の温室効果ガスの排出量は、約12億t（2019年度）で、世界5位の排出国になっています。排出している温室効果ガスのうち、90%以上が二酸化炭素になっており、中でも発電所などのエネルギー部門から全体の約40%もの二酸化炭素を排出しています。

この現状を改善するため、注目されているのが太陽光発電や風力発電、水力発電などの再生可能エネルギーです。再生可能エネルギーは、発電の際に二酸化炭素を発生することがなく、環境に優しくクリーンなエネルギーです。これらの再生可能エネルギーを活用することが、脱炭素社会実現への大きな一歩となります。

それでは、私たちの生活ではどれくらいの二酸化炭素を排出しているのでしょうか。

家庭から排出される二酸化炭素は全体の約14%と言われており、その中でも照明・家電製品から排出される割合が最も多く、次に自動車から排出される割合が多くなっています。この上位2つを合計すると家庭から排出する二酸化炭素割合の半数以上を占めることになります。脱炭素社会を目指す壁となっていることが分ります。

家庭から出る二酸化炭素を削減するためにはどうすればよいのでしょうか。次のページで、市で行っている取り組みと家庭でできる取り組みを紹介します。

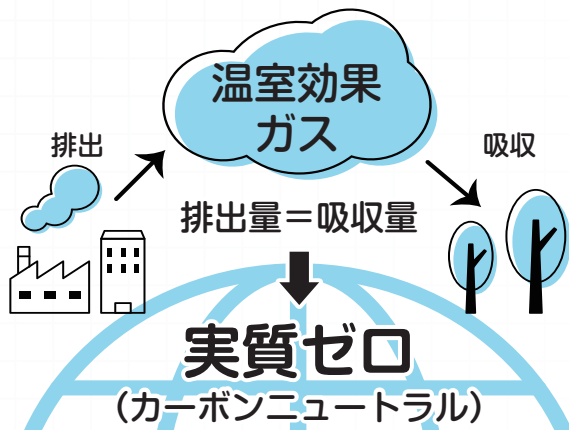


図2 カーボンニュートラルのイメージ